

お客様紹介

株式会社大福鉄工所 様

(ISO9001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

大福鉄工所様は大阪市淀川区で昭和23年に創業して2018年には70周年を迎えた部品加工メーカーです。

創業当時、大手メーカーのクボタが(当時は久保田鉄工)耐熱鋼という特殊金属の加工先を探していて、先代がその加工しにくい金属加工を加工するための工具を作り、加工する技術を確認したところから大福鉄工所様の歴史が始まりました。大型の部品加工をされている同社の実績として関西国際空港のウイングの金具や産業機械、工作機械の部品、船のロープや網を巻くドラム、舞台装置の緞帳を巻くドラム、珍しいものではピザを焼くプレートなどがあり、多品種単品部品を製作加工されています。

工場には最近、最新鋭で横10m、縦・奥行5mの製品を0.001mmまで測定できる3D測定器を導入され、顧客満足の上に向け、さらに高品質の製品を提供できるよう体制を整えられています。また、工場長以下10名全員がベトナム人で、全員ベトナムの工科大学を卒業して就労で日本にいられています。朝礼はベトナム語で行われており、工場内には加工



10m計測可能な最新3Dレーザー測定器

マニュアルなど作業手順の日本語ベトナム語対訳表が掲示されており、工場内のコミュニケーションもスムーズに行われていることが伺えました。

また、社員へ工作機械技術の国家試験の受験を積極的にすすめられるなど、技術向上に向け努力されていることも確認できました。

一方、大福社長様は多趣味でゴルフ、ダイビング、乗馬、旅行(海外、国内とも年数回)、飲み会や、BBQを企画され、社内外の多くの方々と情報交換されています。



船舶用ロープドラム

<http://ofuku-iron.com/>

連載
よみもの

審査員の心理

第29回 (環境編)

「環境目標」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

「取組み」は「著しい環境側面」、「順守義務」及び「リスク及び機会」から導かれ、「運用管理」(8.1)、「緊急事態への備え」(8.2)、「監視・測定」(9.1)等の維持管理に繋がりますが、現状の管理状態に改善が望まれる場合、「環境目標」(6.2)として改善活動に展開されます。

審査では、組織にとって必要な取組みが目標になっているか、目標がマンネリ化していないか、確認するようにしています。

多くの組織で目標とされている取組みとしては、“エネルギーの削減”や“廃棄物の削減”などがあります。俗に言われている“紙・ゴミ・電気”の取組み、すなわち、“紙は裏紙を使いましょう”、“スイッチはこまめに切りましょう”という取組みでは、習慣化すると限界に達してしまうかもしれません。

電気などのエネルギーについては、事務所の消費量より、生産設備の消費量が大いはずです。生産設備の改善・更新が効果的な場合があります。

法規制(順守義務)で義務づけられた規制値に対して、より厳しい管理値で管理することも目標になります。法規制の改正への対応も目標となることがあります。

審査で気になることは、「組織が影響を及ぼすことができる環境側面」(間接側面)に係わる目標が、あまり見られないことです。間接側面があまり認識されていないことが多いのですが、「影響を及ぼす」とは、外部の環境側面に働きかけをすることで、「影響を及ぼす」ことが取組みと考えられます。供給者やアウトソース先などの環境側面に改善が望まれる場合は、環境への配慮を要求・依頼、情報提供、指導することなども働きかけになるでしょう。発注者に提案すること、製品のユーザーに適正な情報を提供することも働きかけと考えられます。

環境負荷の小さい組織では特に、“紙・ゴミ・電気”から卒業して、間接側面への働きかけが目標に挙がるのが望まれます。

